

経営基本方針

(2007年3月期に向けて)

2003年3月4日

ITX 株式会社

アジェンダ

- 第3四半期業績 / 通期業績見直し修正
- オリンパス光学工業との戦略的関係強化
- 経営基本方針

＜第3四半期業績＞
＜通期業績見通し修正＞

2002年度第3四半期業績(連結損益計算書)

単位:億円

	2002年度 第3四半期 (2002年4月1日～ 2002年12月31日)	2001年度 第3四半期 (2001年4月1日～ 2001年12月31日)
売上高	2,389	2,450
(投資育成株式売上高)	(214)	(196)
(機器販売・サービス売上高)	(2,175)	(2,254)
売上総利益	414	357
(投資育成株式売却損益)	(124)	(141)
(機器販売・サービスによる利益)	(290)	(216)
営業利益	40	20
経常利益	△51	4
特別損益	△231	△47
当期純利益	△228	1

通期業績見直し修正

単位: 億円

	2002年度 通期業績 見直し修正	前回見直し (11/13公表)	差異
売上高	3,200	3,300	△100
売上総利益	545	580	△35
営業利益	51	85	△34
経常利益	△46	31	△77
特別損益	△263	△25	△238
当期純利益	△269	6	△275

通期業績見直し修正とそのポイント

■ 売上高

- ・機器販売・サービスにおいて、ネットワーク分野を中心とした子会社での売上げ減少

■ 営業利益

- ・投資育成収益の減少と、機器販売・サービスにおけるネットワーク分野を中心とした各子会社の収益の減少

■ 経常利益

- ・営業外費用:スワップ損失87億円等

■ 特別損益

- ・日商エレクトロニクス株式関連評価損207億円等

セグメント別通期業績見通し(修正後)

単位:億円

事業の種類別セグメント	通期業績見通し(2002/4~2003/3)		
	売上高	売上総利益	営業利益
モバイルサービス事業	1,534	207	45
ネットワークサービス事業	1,001	249	△30
衛星・放送・コンテンツ事業	121	59	54
エレクトロニクス事業	512	22	△4
ライフサイエンス事業	35	8	2
全社又は消去	△3	0	△16
連結	3,200	545	51

2002年度第3四半期業績(連結貸借対照表)

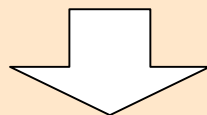
単位:億円

	2001年 3月末	2002年 3月末	2002年 12月末		2001年 3月末	2002年 3月末	2002年 12月末
現金及び預金	216	156	248	短期有利子負債	994	670	686
有価証券	138	44	19	その他流動負債	515	512	469
その他流動資産	659	694	766	長期有利子負債	409	87	239
流動資産	1,013	895	1,033	その他固定負債	39	90	56
有形固定資産	96	96	97	負債合計	1,957	1,360	1450
無形固定資産	666	643	416	少数株主持分	226	237	183
内、連結調整勘定	641	616	386	資本金・資本準備金	200	484	484
投資有価証券	211	88	59	利益剰余金(連結剰余金)	4	46	△182
投資育成有価証券	309	293	131	その他有価証券評価差額金	0	56	1
その他固定資産	92	147	177	その他	1	3	△4
固定資産	1,375	1,266	880	資本合計	205	589	299
繰延資産	0	24	20	負債、少数株主持分 ・資本合計	2,388	2,186	1,932
資産合計	2,388	2,186	1,932				

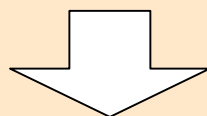
<オリンパス光学工業との戦略的関係強化>

オリンパス光学工業とITXの現在まで

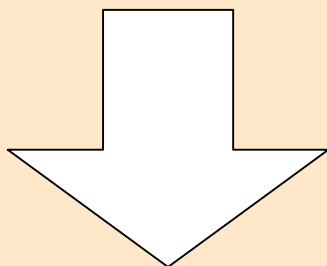
1984年 現在のITXの実質的前身となる
日商岩井(株)情報産業本部を設立



2000年3月 日商岩井(株)より営業譲渡を受ける
2000年4月 **ITX営業開始**



2001年12月 ナスダック・ジャパン市場
(現ヘラクレス市場)上場



2003年1月 **オリンパス光学工業とITX戦略的關係強化**
ITXの筆頭株主に

**オリンパス光学工業
戦略株主として資本参加**

2001年4月 オリンパス光学工業、ITX共同
タスクチームの開始
(スマートエッグ・プロジェクト)

2002年3月 ITXグループ会社バイオックスに
オリンパス光学工業が出資し製品の
共同開発開始

2002年12月 共同でAOIテクノロジーを設立

オリンパス光学工業との戦略的関係強化の概要

■ 関係強化の概要

- ※ 日商岩井の保有するITXの株式(約10万株)を追加取得 (22.34%)
- ※ ITX発行の新株予約権付社債(100億円)を引き受け
(転換後オリンパスグループで37.08%)

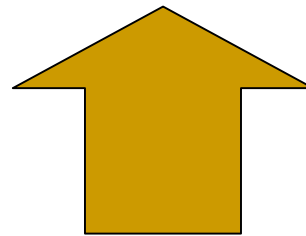
■ 関係強化の意味合い

- ※ オリンパス光学工業のリソースの活用
(投資育成のための新たな経営資源の獲得と必要な機能の強化)
- ※ 協業の推進
- ※ ITXとオリンパス光学工業の両社の事業の再編検討

オリンパス光学工業のリソースの活用



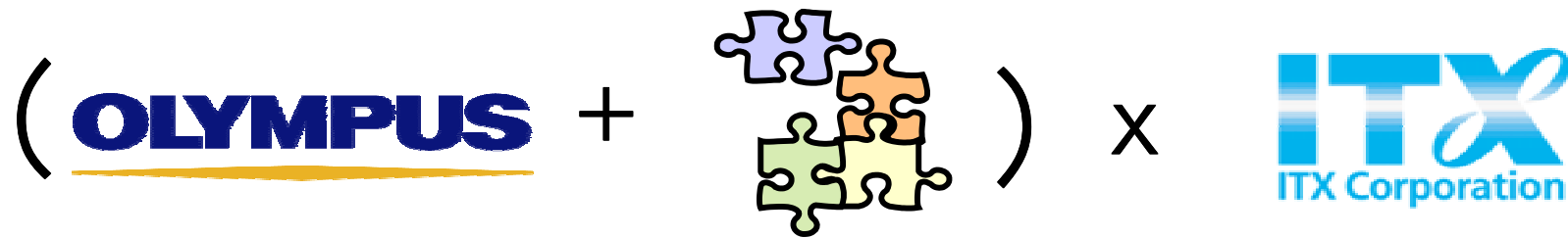
- 投資育成会社としての機能強化
- パラダイムシフトを起こす事業の創出



OLYMPUS

- 世界最高水準のオプトデジタルテクノロジー
- 映像・医療・産業分野でのグローバルな販売力・ブランド力
- 研究・開発・製造技術力

オリンパス光学工業とITXの戦略



オリンパス内部
経営資源

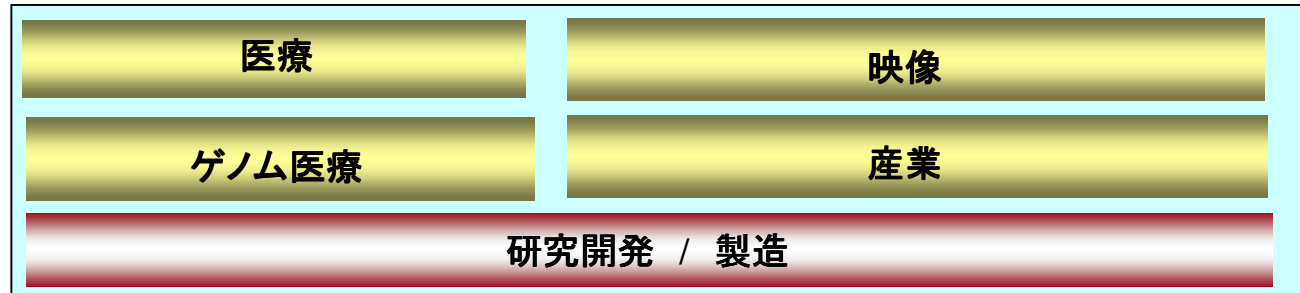
パートナー
経営資源

事業化 / 育成

オリンパスの強み(オプトデジタルテクノロジー分野での技術力、映像・医療・産業分野における販売力・ブランド力)と ITXの強み(新規事業創出能力・事業育成力)を有機的に融合し、新規事業の開発・展開を行っていく

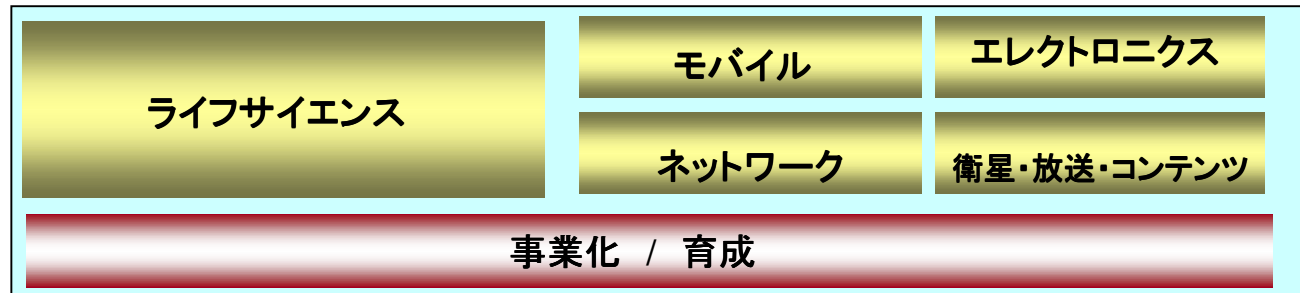
オリンパス光学工業との新規事業

OLYMPUS



X

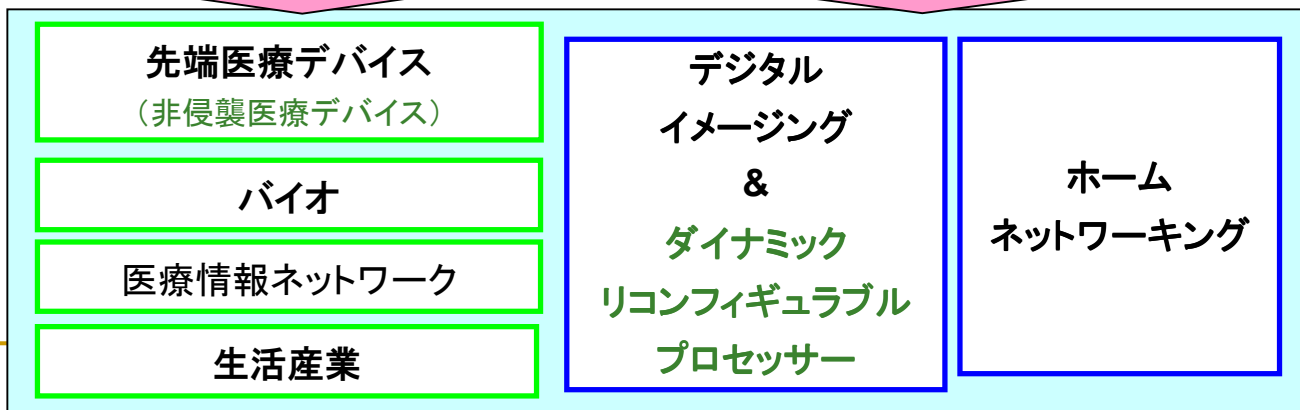
ITX
ITX Corporation



医療 関連

映像・産業 関連

新規事業
(緑色:実績)



7ページ 下段

<経営基本方針>

経営基本方針策定の背景と概要

■ 背景

筆頭株主のオリンパスへの交代及び同社との戦略的関係強化を機に、2007年3月期に向けた4カ年の経営基本方針を策定

■ 概要

- ・経営理念は不変（事業創出会社&マーケットアクセレーター）
- ・事業分野の新設/再編
- ・新規事業への取組
- ・オリンパスとの戦略的関係強化による同社のリソースの活用と協業

経営目標

- 『マーケットアクセレーター』として、新たな市場を創造し、その市場を発展させていく
- 「スピード」、「ボーダレス」、「パラダイムシフト」をテーマに、新規事業の創出と育成を通じITXグループの『企業価値の向上』をはかる

数値目標

2007年3月期目標

- 売上高 : 6,000億円
- 営業利益 : 400億円
- 当期純利益 : 100億円
- 4年間の新規投資予定額: 700億円

(2003年4月～2007年3月)

※投資育成売上高およびその収益は上記に含まず

事業展開分野-従来

ITXグループの
5つの事業領域

モバイル

- ・携帯電話等のモバイルターミナル及び回線販売
- ・携帯端末のブラウザの開発、販売

ネットワーク

- ・IP技術にフォーカスした通信事業
- ・システムインテグレーションサービス
- ・システムソフト及びソリューション
- ・ヒューマンリソース及びアウトソーシング
- ・ネットビジネス
- ・ネットワークインフラシステム販売



ライフサイエンス

- ・先端医療デバイスの開発・販売
- ・試薬の販売
- ・医薬品の開発
- ・バイオ/ゲノム/再生医療関連ビジネス

衛星・放送・コンテンツ

- ・ブロードバンドメディア/双方向放送向けのマーケティングサービス
- ・ケーブルテレビ事業

エレクトロニクス

- ・パソコン周辺及びインターネット関連機器の販売
- ・光通信・半導体製造装置販売
- ・アプリケーションソフトの販売
- ・電子部品及び半導体の販売

事業展開分野-今後

●ライフサイエンス

- ・医療デバイス
- ・バイオ
 - ・ゲノム創薬支援
 - ・再生医療
- ・医療ネットワーク
- ・生活産業

●ネットワーク&テクノロジー

- ・テクノロジーイノベーション
 - ・コミュニケーション
 - ・デジタルイメージング
 - ・DRP
 - ・ホームネットワーキング
 - ・コミュニケーション他
- ・インターネットサービス
 - ・m-コマース他
- ・ブロードバンドサービス
 - ・FTTH/FTTO
 - ・MSP他

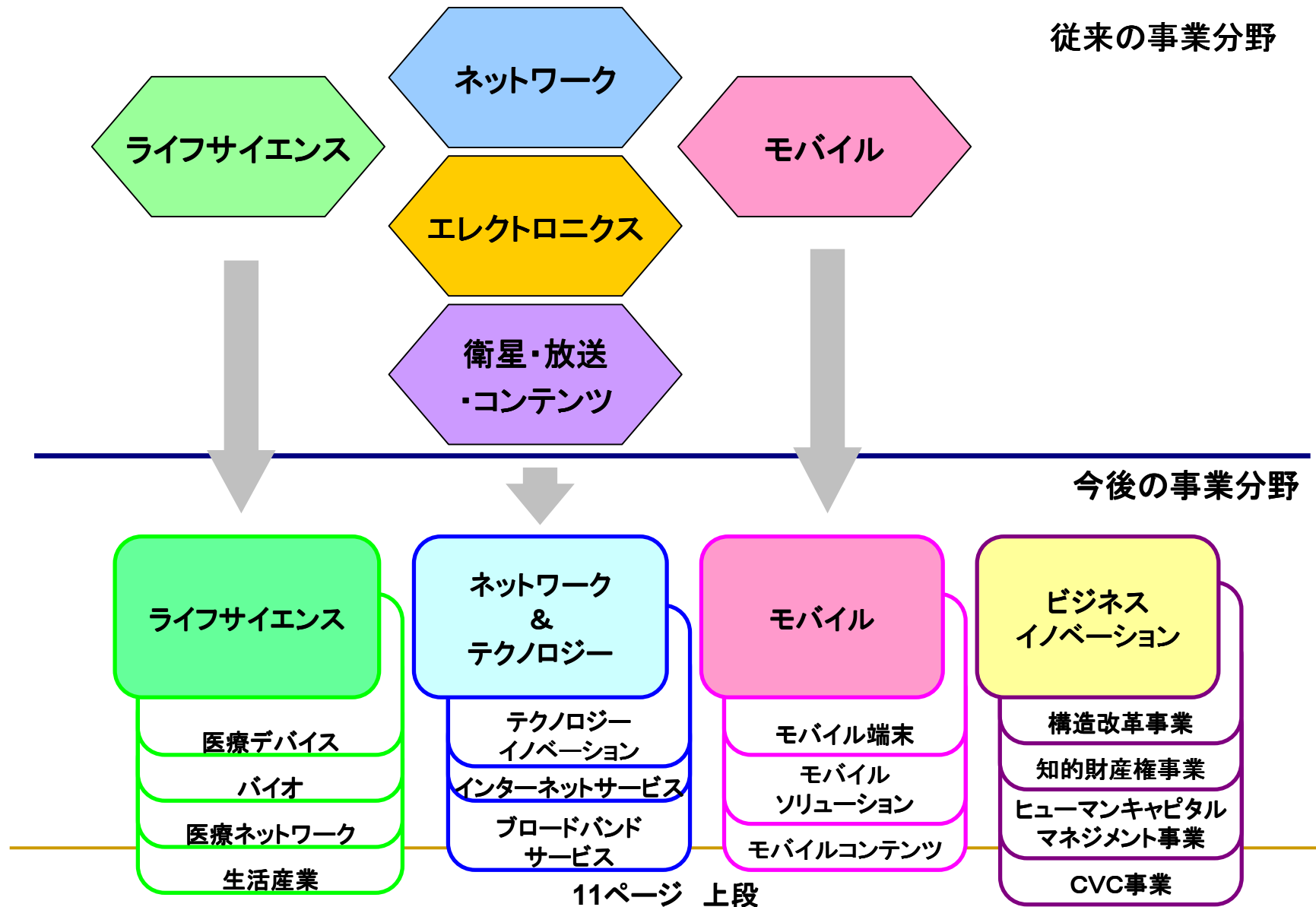
●モバイル

- ・モバイル端末
- ・モバイルソリューション
- ・モバイルコンテンツ

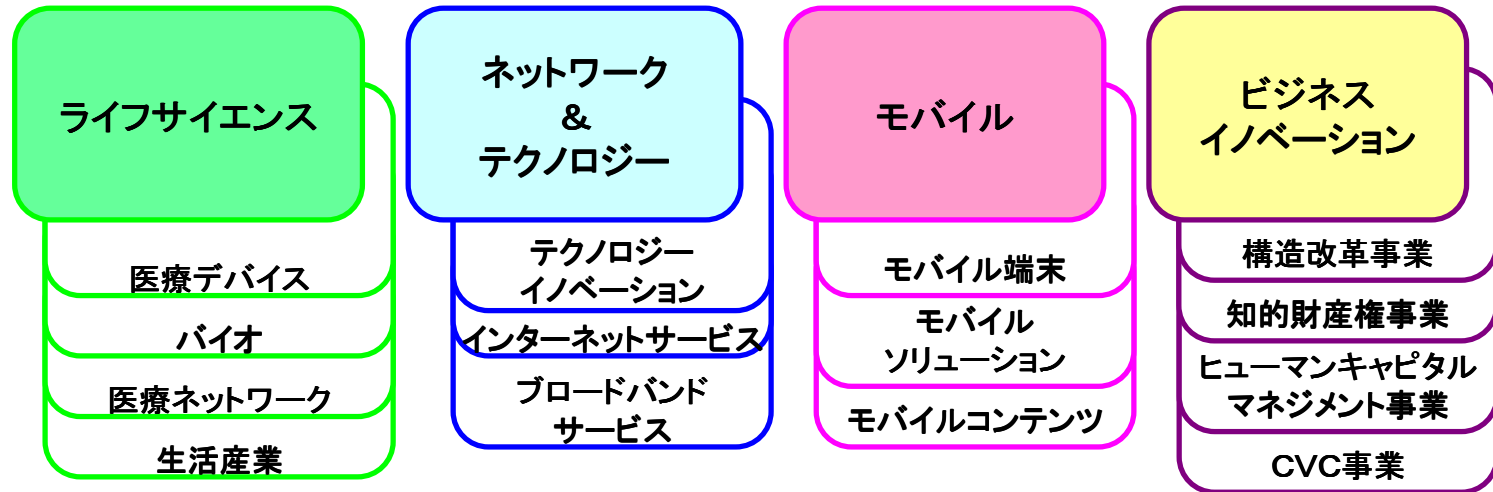
●ビジネスイノベーション

- ・構造改革事業
 - ・知的財産権事業
 - ・ヒューマンキャピタルマネジメント
 - ・CVC事業
- 他

ITX Group 事業分野



ITX Group 事業分野



サービス

ソリューション & ディストリビューション

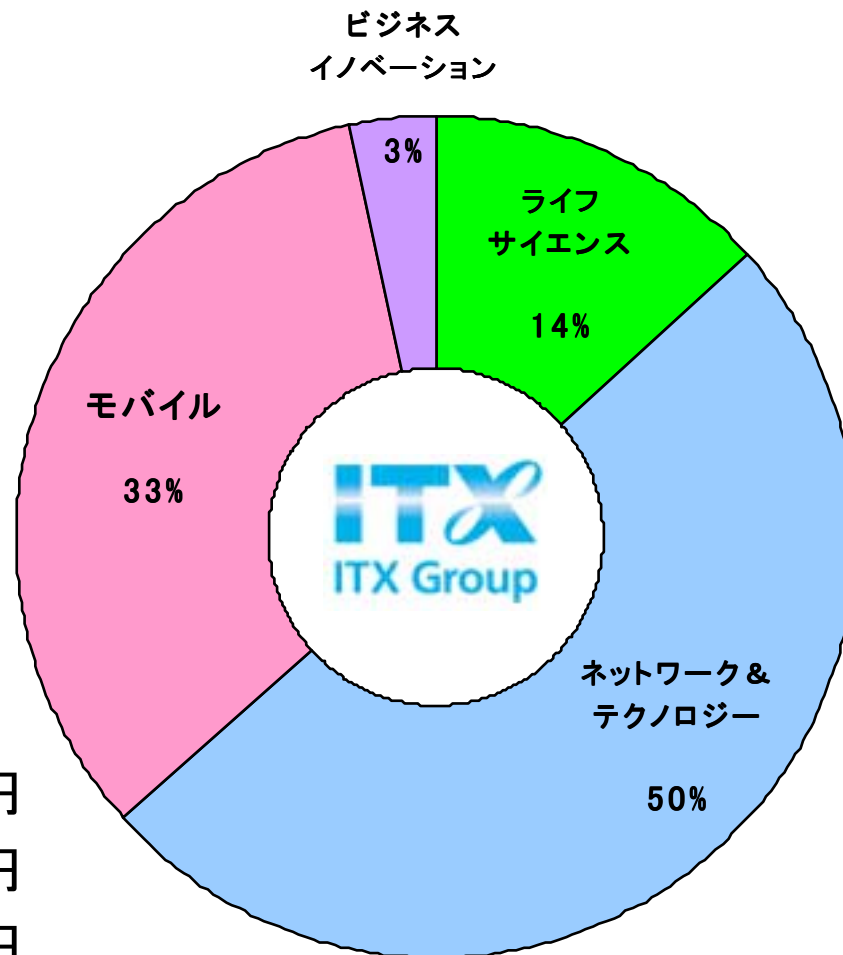
開発

事業分野別売上高目標

2007年3月期 売上高

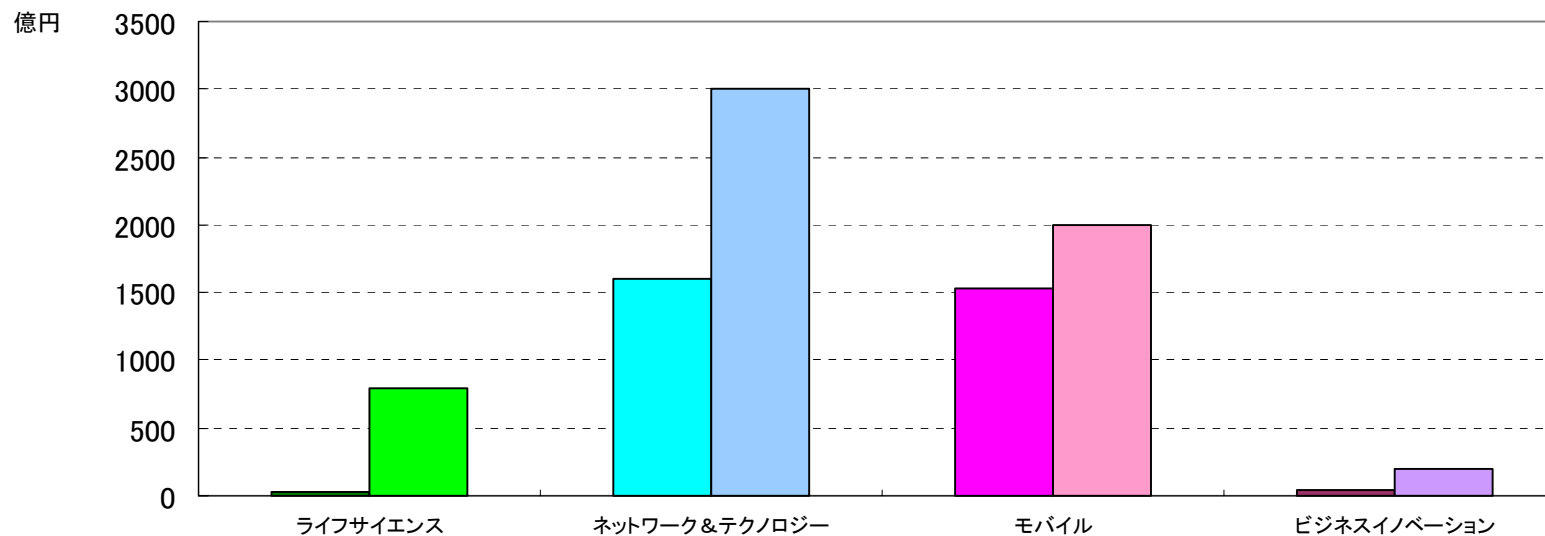
- ライフサイエンス : 800億円
- ネットワーク&テクノロジー : 3,000億円
- モバイル : 2,000億円
- ビジネスイノベーション : 200億円

合計: 6,000億円



現状／2007年3月期の比較(売上高)

現状の事業領域 03年3月期売上高 見通し	今後の事業領域に 置き換えると	2007年3月期目標
<ul style="list-style-type: none"> ・ライフサイエンス 35億円 ・ネットワーク 1,001億円 ・衛星・放送・コンテンツ 121億円 ・エレクトロニクス 512億円 ・モバイル 1,534億円 ・全社又は消去 △3億円 	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフサイエンス 35億円 ・ネットワーク & テクノロジー 1,586億円 ・モバイル 1,534億円 ・ビジネスイノベーション 48億円 ・全社又は消去 △3億円 	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフサイエンス 800億円 ・ネットワーク & テクノロジー 3,000億円 ・モバイル 2,000億円 ・ビジネスイノベーション 200億円
■ 3,200億円	■ 3,200 億円	■ 6,000億円



各事業の戦略 – ライフサイエンス事業

2007年3月期売上高800億円

医療デバイス分野

バイオ分野

- ◆ゲノム創薬支援
- ◆再生医療

医療ネットワーク分野

生活産業分野

各事業の戦略 – ライフサイエンス事業

- 医療デバイス、バイオ、医療ネットワークの3分野を中心に展開

■ 医療デバイス分野

開発中の血糖値測定器、販売中の肝臓がん治療機器等に加え今後需要が高まると考えられる医療デバイスに注力。

- 欧米の優れた治療用医療デバイス
- 非・低侵襲でQOL向上に寄与する診断・治療デバイス
- 予防・健康維持増進に貢献する医療用デバイス

各事業の戦略 – ライフサイエンス事業

■ バイオ分野

- **ゲノム創薬支援**: DNAチップ、不死化細胞技術を核にしたゲノム創薬における支援サービス事業を手始めに試薬/診断薬、ゲノムPOC(ポイント・オブ・ケア)、創薬支援材料受託生産、ナノバイオ関連の事業展開
- **再生医療**: 同分野の製品の開発・製造・販売を目指すとともに、再生医療実用化を視野に入れた幹細胞バンキングビジネスへ参入検討

■ 医療ネットワーク分野

同分野コア子会社のデジタルアークス等既存の関係会社3社を中心に医療情報ソリューションサービスを提供。在宅医療・予防診断サービス事業も展開。

各事業の戦略－ネットワーク&テクノロジー事業

■ 2007年3月期売上高3,000億円

テクノロジーイノベーション分野

デジタルイメージング
DRP(ダイナミック・リコンフィギュラブル
・プロセッサ)
ホームネットワーキング
ネットワークソリューション
コミュニケーション
セキュリティ
インターネット・PC関連機器
半導体デバイス
グラフィックス・映像関連

インターネットサービス分野

ネットビジネス
e-コマース
m-コマース

ブロードバンドサービス分野

ケーブルテレビ
FTTH/FTTO
MSP

各事業の戦略ーネットワーク&テクノロジー事業

- 既存事業グループ会社の更なる育成、収益拡大と新規事業の立上・育成

■ テクノロジーイノベーション分野

- ネットワーク、コミュニケーション、セキュリティ、インターネット関連プロダクツ、半導体関連等既存事業のソリューション、ディストリビューション、サービス提供のラインアップの拡充、シェア拡大と収益向上。

- ダイナミック・リコンフィギュラブル・プロセッサ(DRP)関連

オリンパス光学工業と設立した、DRPのファブレス事業会社を中心に、DRPチップ・ボード・モジュールを設計・販売、DRP市場を拡大。再構成可能という特徴を活用してカーテレマティク-サービスや各種情報端末向けに、ソフトウェアのプラットフォーム事業・ソフトウェア販売事業を展開。デジタルカメラ、カメラ付携帯電話、PC等により取り込まれたデジタルイメージをオンラインプリンティングする様なディストリビューションビジネスの展開。

各事業の戦略ーネットワーク&テクノロジー事業

■ テクノロジーイノベーション分野

ホームネットワーキング

ブルートゥース、UWBチップ、DRP等の当社が出資等で関与する海外先端要素技術を核に

- ・これらを組み込んだワイヤレスデバイス、アプリケーションモジュールの設計・開発・販売
- ・アプリケーションデザインセンターを設置しファブレスで事業展開
- ・同先端技術を利用したホームゲートウェイサーバの設計・開発・販売
- ・専用ネットワークオペレーションセンターを用い、リモート管理システムをベースにマルチサービスプロバイダ事業を展開
- ・家庭内セキュリティサービス、エンタテインメントコンテンツ配信サービス、ホームヘルスケアサービスへ参入

■ インターネットサービス分野

e-マーケットプレイス運営、EC決済・インターネットメディア・CRMサービス提供等の既存事業拡大、新分野としてm-コマース、B向け金融ポータル等サービスメニュー拡充。

各事業の戦略 — モバイル事業

2007年3月期売上高2,000億円

モバイル端末分野

モバイル
ソリューション分野

モバイル
コンテンツ分野

各事業の戦略 — モバイル事業

- 収益基盤である既存のモバイル端末ディストリビューションビジネスの強化および新規ビジネスの展開

■ モバイル端末分野

トップクラスのシェアを誇るモバイル端末のディストリビューションビジネスにおける収益性の向上。今後の次世代(3G)への移行に伴い、既存のショップ販売網の効率的な拡大による、更なるシェア・アップと、業界トップシェアの獲得。

■ モバイルコンテンツ分野

音声から画像中心にサービスが転換する流れの中で、従来の限られた情報エンターテイメント系モバイルコンテンツ展開を、リッチコンテンツの開発・制作・配信へ取組拡大。モバイル端末の高機能化、多機能化を視野に入れた、新規ビジネスチャンスの開拓、新サービスの展開。

各事業の戦略 — ビジネスイノベーション事業

■ 2007年3月期売上高200億円

構造改革事業

知的財産権事業

ヒューマンキャピタル
マネジメント事業

CVC事業

各事業の戦略 — ビジネスイノベーション事業

■ 構造改革、知的財産権、ヒューマンリソースビジネスの3分野を中心に展開

■ 構造改革事業

グループ企業やビジネスネットワークを通じ再生・改革可能な企業を発掘。グループ企業の経営資源をベースに、ファイナンシャルアプローチのみならず、事業そのものの構造改革に踏み込む。

■ 知的財産権事業

グループ企業が既に開発・販売している特許管理システムをベースに、特許分析及び特許・技術ライセンス移転ビジネス市場の創造と拡大、並びに国内外のパートナーとの事業展開。

■ ヒューマンキャピタルマネジメント事業

ヒューマンリソース系事業(新卒採用支援、適正検査、新卒派遣等)、e-ラーニング、機能効率化サービスの既存顧客アセットをベースに、更なるサービスメニューの拡大、戦略パートナーとの提携、顧客獲得による収益の拡大。